

## ダイヤゼブラ電機

# EVへの再エネ電力蓄電を可能にするPCSシステムを開発

## 外部供給可能にするアダプタと共に今年10月出荷へ

ダイヤモンドエレクトリックホールディングスのグループ企業であるダイヤゼブラ電機（大阪府大阪市）は先月開催された太陽光発電展で、太陽光発電と電気自動車および蓄電池を制御するパワーコンディショナとV2Hユニットおよび蓄電池ユニットを組み合わせた多機能パワーコンシステム「E



多機能パワーコンシステム「EIBS®V」

I B S V」と、V 2 L 芝製 S C i B を採用用外部給電アダプタ「E し、2万サイクル以上の

IBS7 from V」を披露した。販売開始は4月以降を、出荷は10月からを予定している。「EIBS V」は、蓄電池にチタン酸リチウムイオン蓄電池（東



▶「EIBS7 from V」のV2L用外部給電アダプタ

ヨナの組み合わせとなる。なお、同製品は東京電力ホールディングスとの共同研究で開発された。

長寿命、メンテナンス20度C未満で動作が可能。業界トップクラスの薄型軽量V2Hスタンドと30%の低電圧対応パワーコンディン

「EIBS7 from V」は、停電時に車載AC100Vコンセントから自宅内機器に電力を供給することができる外部給電アダプタ。自動車のみでAC1・4路の自立運転が可能で、PVや蓄電池併用で最大AC5・5結まで出力できる。住宅用蓄電ハイブリッドシステム「EIBS7」に後付けが可能だ。

同社は、両機器を自社社宅に設置し、昨年10月より実証を行っている。